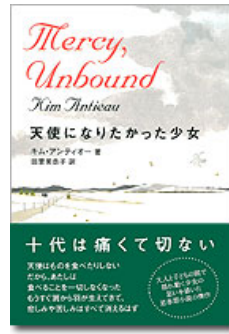




まつむら あやこ 松村亜矢子(シンクロダイズドスイミング選手)

- 春日井市出身・在住
- ★ シンクロダイズドスイミング北京五輪代表。
- ★ 世界水泳団体銀(H17)。ワールドカップ団体銀、ワールドトロフィー総合銅(H18)。世界水泳デュエット銅・団体銀(H19)。北京五輪団体5位入賞(H20)。
- ★ 文部科学大臣賞、愛知県スポーツ功労賞等受賞。

わたしの一冊



- ▼書名 天使になりたかった少女
- ▼著者 キム・アンティオー／著
- ▼訳者 田栗美奈子／訳
- ▼出版社 主婦の友社

本の紹介

天使になりたかった少女

主人公のマーシーは世の中の悲惨な出来事に苦しむ人々や家族、周囲の人達の悲しみを癒したいという思いが募るあまり、背中に翼が生え、自分は天使になるのだと言い出します。そして天使には食べ物はいらぬはずだと考え、食べることをやめてしまうのです。

一部ではマーシーの心の描写、二部では治療施設での友情、三部では原題「解き放たれたマーシー」そのままに、周囲の愛情によって自分を取り戻してゆく様が描かれています。「摂食障害の少女の話」としてだけでは

小中学生のみなさんへ

折れない精神

折れない精神。これは私が座右の銘としてもっている言葉です。人は生きていく限り、楽しいこともあるけれど、辛いことや苦しいことの方がたくさんあります。その苦しい場面に立たされた時に心や気持ちが悪くだけ前進することができないか。体が無理だと言っているも、気持ちさえ折れなければ、限界以上の力が発揮できる。それを出せた時には何かしら結果は必ずついてきます。

どんなことに對しても、一つ何かをやる！と決めたなら、その決めたことに對して常にあきらめない気持ちを持ち続けること。

この言葉を是非、みなさんの頭の中の隅っこのでもいいので置いておいてほしいと思います。





みずたにけんじ 水谷研治(大学院教授)

- 名古屋市出身・在住 名古屋大学卒(経済学博士)
- ★ 一九五九年東海銀行(現三菱東京UFJ銀行)入行。経済企画庁・シティ銀行へ出向後、各支店長、調査部長、専務取締役を歴任。
- ★ 東海総合研究所社長、会長、理事長を歴任後、中京大学大学院教授を経て、東京福祉大学大学院教授。

わたしの一冊



- ▼書名 金のひしゃく
—北斗七星になった孤児たち—
- ▼著者 増田昭一
- ▼出版社 中国残留孤児援護基金

本の紹介

国民の一人一人に読んでもらいたい

絵本である。ページ数も少ない。低学年の児童でも簡単に読める。だからと言って馬鹿にせずに、中学生にも読んで欲しい。できればお父さんにもお母さんにも読んでいただきたい。

本当にあった出来事である。一九四五年の夏から翌年にかけて、場合によってはその翌年にかけて起きた話である。

満州(現在の中国東北部)で起きた悲劇である。日本の幼い子供たちが食べるものがなく死んでいった。生き延びたかったであろう多くの幼子

小中学生のみなさんへ

本当にあった悲しいお話

の気持ちをおもひ、誰もが涙を禁じえない。今日、我々がどれほど贅沢に暮らしているかを反省させられる。

絵本です。ページ数が少ないので、簡単に読めます。

できればお父さんにもお母さんにも読んでもらってください。きっと感動します。

皆さんのおじいさんやおばあさんの子供のころに本当にあったお話です。満州(今の中国東北部)で起きたことです。

日本の多くの子供たちが食べるものがなくて、かわいそうに死んでいきました。

このようなことがあったことを知ってください。そして今、皆さんが豊かに暮らしていることに感謝の気持ちを持ってほしいのです。

命を大切にしてください。生きのびることができなかった子供たちの分まで生き、社会のお役に立つ人になってください。



みやけたみお 三宅民夫(NHKエグゼクティブアナウンサー)

■ 名古屋出身 東海高等学校卒
★ NHKニュース「おはよう日本」・「NHKスペシャル」キャスター、「紅白歌合戦」総司会、大河ドラマ「功名が辻」や「探検ロマン世界遺産」のナレータ等、報道・情報・教養・芸能、幅広いジャンルの番組を担当。NHKを代表するアナウンサーのひとり。「北京オリンピックブック開会式」も中継。現在、「日本の、これから」を担当。

わたしの一冊



▼書名 ガリバー旅行記

(子どものための世界文学の森3)

▼著者 ジョナサン・スウィフト／著

矢崎節夫／訳 河井ノア／絵

▼出版社 集英社

本の紹介

子どものころ絵本で読み、「海に向こうに国があるんだ!」「どんなところだろう? 行ってみたい!」と、大きな夢をもちました。そして冒険(ぼうけん)ごっこをして遊びました。

ガリバーが流(なが)れついた『こびとの国』では、となりの国と「たまごの正しいわり方(かた)」をめぐる戦争(せんそう)中。さらに『巨人(きょじん)の国』や『空飛(と)ぶ国』などにもでかける、ハラハラドキドキの冒険(ぼうけん)物語(ものがたり)。

じつは、アナウンサーになって、番組(ばんぐみ)で『ガリバー旅行記(りょこうき)』をとりあげることになり、本をあらためて読みました。そしてビックリ! ふしぎな物語(ものがたり)の中には、深(ふか)い意味(いみ)がこめられていたのです。おかしなことではじまる戦(いくさ)

小中学生のみなさんへ

大自然(だいしぜん)の中で……

争(いくさ)への批(ひ)はん、偉(えい)い大人(おとな)たちや政治(せいじ)へのいかり、世(よ)の中(なか)への疑問(ぎもん)……。 「なほほど人間(にんげん)でそうだな!」と、つぎつぎハツと気づかされるのです。
子どもも、おともなも楽しめ、人間(にんげん)や社会(しゃかい)の本当(ほんとう)のすがたが見えてくる。先生(せんせい)や家(いえ)の人(ひと)と読んで話しあってみるのも、面白い(おもしろ)かも!

塾(じゅく)や、クラブに、習(なら)いごと、ゲーム、メールにインターネット……。今の小中学生(こちゅうせい)はとてもいそがしいと聞(き)きました。チャンスがあつたら、「大自然(だいしぜん)の中で」すごしてみてください。風(かぜ)や、木(こ)の葉(は)の音(ね)が、夜空(よぞら)の星(ほし)が、なにかを感じ(か)させ(さ)せてくれるのでは……。 日常(にちじょう)をはなれてみることも、それも冒険(ぼうけん)。あなたもガリバーです!





みやもとまさはる

宮本延春(高校教員・エッセイスト)

- 半田市出身 豊川市在住 豊川高等学校勤務
- ★ 中学卒業後見習い大工に就職。十六歳のとき母を、十八歳のとき父を亡くす。二十三歳のときにインシチュアイン博士の番組を見て、物理学に興味を持ち独学で勉強。二十七歳で名古屋大学に入学。
- ★ 著書に『オール1の落ちこぼれ、教師になる』等。

わたしの一冊



▼書名 キミのためにできること

▼著者 宮本延春

▼出版社 WAVE出版

本の紹介

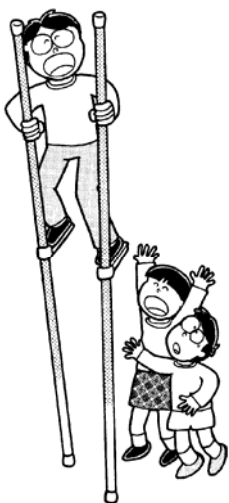
この本は僕自身が書いたものですが、その思いは、いじめに苦しみ、勉強ができないことで悩み、家族とのすれ違いで不安になり、自分の将来に夢や希望など持つことができなかった小中学生時代の自分自身や、少なからず私と同じような思いを抱えている子供に向けて書いたものです。

人は、その時々で様々なことを考え、思い悩むものです。大人から見ればたいしたことではないようなことも、心も体も未熟な子供にとっては大問題になっていることも、よくあります。それらの問題に対して、いくつかの項目(勉強が苦手なキミへ)や(将来が不安なキミへ)という形で書かれている本書は、文章も平たんわかりやすく、読みにくい漢字には、

かなが振ってあります。今すぐに全てを読まずとも、その時々読み返すことで、新たな見方ができる、そのきっかけを与えてくれる本かもしれません。

小中学生のみなさんへ

人生は嬉しいことや楽しいことだけではありません。苦しいことや辛いことも、乗り越えていく力も必要になります。ちよつとしたつまずきや、些細な障害、そんなものがとてつもなく大きな壁に感じるときがあります。それでも人生は続いていきます。より良い人生を歩もうともがき、泥水を飲むような生活をしていた僕の経験が、その時々感じた思いや言葉やメッセージが、悩めるキミのために少しでも力になれば、この上ない喜びです。キミが感じる心の成長痛は逃れることのできないものですが、意味のあることです。この本が届ければ、思いは、ほんの少ししかないのかも知れません。それでも僕は心を込めて、キミへこの本を送ります。

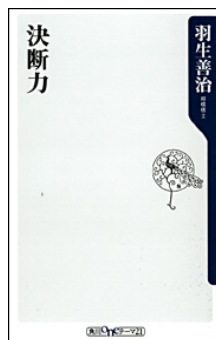




むろた いお 室田伊緒(女流棋士)

- 春日井市出身 愛知淑徳大学在学
- ★ 杉本昌隆七段門下
- ★ 第36回女流アマ名人戦優勝(平15)。女流育成会入会(平16)、女流2級(平17)、女流1級(平18)、女流初段(平20)。
- ★ NHK将棋講座でアシスタントを務める。

わたしの1冊



▼ 書名 決断力
▼ 著者 羽生善治
▼ 出版社 角川書店

本の紹介

将棋のトップ棋士の羽生さんが書いた本を紹介します。

「決断力」はいろいろなところで必要とされてくることは知っていますか？まず「決断力」とは何かというと、「自分で決める力」のことを言います。

これから先、自分で決断していかなければいけないことがたくさんあると思います。羽生さんにも決断をしなければいけないときがあって、そのことについて書かれています。決断することは簡単なようで難しいです。私も参考になったので、みなさんも読んでみてください。

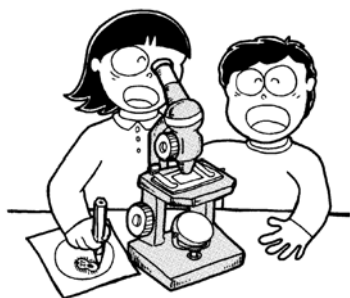
最後に本の1節を紹介します。

小中学生のみなさんへ

「何事でも、決断し、挑戦してみないと、結果がどうなるかはわからない。」
私はこの言葉を信じて、何事にもチャレンジしようと思っています。

はじめまして、女流棋士の室田伊緒です。将棋のプロとして活動しています。将棋を始めたのは、小学校五年生のときでした。そして、中学生でプロを目指し、高校一年生のときにプロになりました。将棋が好きで、好きになればなるほど勉強をするようになりました。

早いうちから好きなことを見つけれられるというのは、幸せなことだったのだな、と、最近気が付きました。みなさんは何か好きなことはありませんか？あれば、それをもっともつと好きになってください。なければ、まわりをよーくみてください。もしかしたらすぐ近くにあるかもしれませぬよ。





矢野きよ実(タレント・書家)

■ 名古屋市長須生まれ

★ 下町育ちの飾らないトークが老若男女に大好評でさまざまな番組のパーソナリティーを務める。現在、メロテレ「どですか」、FM AICHI「矢野雑貨店」で活躍中。また、書道家として香花(しようか)の雅号もち、これまで数多くの賞を受賞。その他、AEDの普及や幼児虐待、性的虐待への取組を積極的に応援。

わたしの一冊



▼ 書名 銀河鉄道の夜

(宮沢賢治童話集3)

▼ 著者 宮沢賢治/作

太田大八/絵

▼ 出版社 講談社

本の紹介

● 小中学生におすすめの一冊を紹介してください。

「銀河鉄道の夜」。若いときにこの本を読んで救われました。わたしの人生の教科書です。これは、ジョバンニとカムパネルラという二人の男の子の話です。ジョバンニはお母さんが病気なんです。そして、とても貧しいのです。もう一人の子はお金持ちです。子供たちってみんなお母さんから生まれてきていて、みんな同じ生活をすればいいのに、何か違うっていうことを感じていたりしますよね。でも、本当に大切なものは、お金ではないよっていう自分の幸せというのをちゃんと見つけているのです。

わたしは何がいちばん幸せかというと、生活をちゃんとされていて、その中でみんなが健康でいて、それで、きれいな夕焼けがちゃんと見られて、

お花がきれいだねって感じられてというものだと思うんですね。わたしの母親と十三歳になる息子が、いつも空を眺めてはお月様に手を合わせている姿を見て、これがいちばんありがたいな、幸せだなって思うんですね。そんなことが書かれているんですよ。

小中学生のみなさんへ

● 小中学生に伝えたいことはどのようなことでしょうか。

今の学校教育がみんな一緒じゃないといけないじゃないですか、横並びで。全然そんなのは必要ないと思います。自分のことを信じて、楽しい毎日がいいと思う。もし悩んだら、横にいる人に相談すればいい。だれも完ぺきな人なんていないし、毎日いろいろな人を見ていくけど、そんな人はいない。完ぺきな人間なんてすてきじゃない。何がすてきかっていったら、育っていないところがある人の方がすてきなんです。これから育てばいいから。書(※矢野さんは書道家としても活躍しています。)で、「育っていないなくても美しいんだ。育っていないから美しいんだ」と書きましたけど、自分の美しいと思うものを美しいと言えることが大切だと思います。音楽も、今、はやっているから、一位だからこれが好きって言わなくていい。自分の心が「あれっ」というふうには、なんかどきどきしたというものが好きなんだよっていうこと。その好きをいっばいためるといいです。体が宝箱ですから。



やまもとしんすけ 山本眞輔（彫刻家）

- 一色町出身、名古屋市在住 名古屋市立大学名誉教授
- ★ 昭和三十七年に日展初入選以後毎年出品。日展特選受賞（S 47、48）愛知県芸術選奨文化賞受賞（S 59）、イタリア留学（文部省派遣在外研究員）、第三十一回日展内閣総理大臣賞受賞（H 11）、中日文化賞受賞（H 19）など、数々の受賞歴。

わたしの一冊



- ▼書名 レオナルド・ダ・ビンチの童話
- ▼著者 ブルーノ・ナルディーニ／編
- ▼訳者 渡辺和雄
- ▼出版社 小学館

本の紹介

レオナルド・ダ・ビンチは芸術家であり、科学者、有名な天才です。イタリアのビンチ村で一四五二年に生まれています。画家としては「モナ・リザ」を描いています。その他の分野においても多くの研究をしています。レオナルドは芸術と科学は一体のものであると考え、「真実」と「美しさ」を求めるといふ信念をつらぬきました。「童話」もたくさん書いています。レオナルドの考えていること、自然の見方、そのかわり方、などが表されています。皆さんはこの「童話」の中から、これから自分はどうのように生きていったらよいかなどの進んでいく方向を考えるためのヒントを見つけだして下さい。文明と自然の調和は私たち現代人の問題でもあります。

小中学生のみなさんへ

継続は力なり

彫刻をやるうと決めた時、みんな賛成してくれませんでした。生活がでないというのがその理由でしたが、進路を変えませんでした。日本の大学とイタリアの美術学校で彫刻を勉強し、展覧会で作品を発表しています。大学の先生になり若い人たちと一緒に今も彫刻の研究を続けています。彫刻をやるうと決めてから五十年あまりになりますが、まだまだ勉強することがたくさんあります。元気に制作できることは幸せだと感謝しています。ひとつのことを続けることはいろいろな大変なことがあります。きつといいことがあると信じています。皆さんに「継続は力なり」という言葉をメッセージとして送ります。

その他の紹介図書

- ◆ 「葉っぱのフレディーのいのちの旅」（レオ・バスカリア／作 みらいなな／訳）童話屋
- ◆ 「ファープルの虫たち Kumada Chikabo, s Little World」（熊田千佳慕）創育



よしだきおり 吉田沙保里(レスリング選手)

- 大府市在住 中京女子大学卒業
- ★ 総合警備保障所属
- ★ アテネ五輪、北京五輪で二大会連続金メダル獲得。
- ★ 世界選手権六連覇中。
- ★ 公式戦一一九連勝。国際大会二十七大会連続優勝など
- ★ 数々の金字塔を打ち立てた。
- ★ 第五十七回「日本スポーツ大賞」グランプリ受賞。

わたしの一冊



- ▼書名 明日もまた生きていく
- ▼著者 横山友美佳
- ▼出版社 マガジンハウス

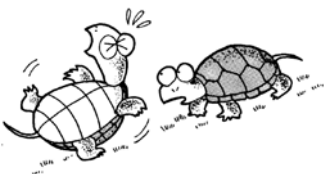
本の紹介

日頃、読書に縁のない私が、本書を読むきっかけになったのは、同じ女子レスリング日本代表の伊調千春選手から薦められたからです。著者の横山友美佳さんは、昭和六十二年中国北京に生まれ、小学校よりバレーボールを始め、中学時代からオリンピック有望選手として期待されるなど全国区で活躍した選手です。ところが平成十七年三月、全日本合宿参加連絡の日「ガン」を発病しました。本書は、横山さんがバレーボールに打ち込み発病するまでの十八年間で、壮絶な闘病生活を送りながらも希望を失わずに夢を追い続けた三年間の日々を綴った感動の手記です。

小中学生のみなさんへ

今という瞬間を大事に生きていたい！

皆さんの応援のおかげで北京オリンピックで金メダルを獲得することができました。私が「オリンピックに出場したい」と強く思ったのは、中学生の頃です。柔道の金メダリストである田村亮子さんの活躍を見て、「いつか私もヤワラさんのような選手になりたい。」と心に誓いました。夢を追い求め、つらく苦しい練習に耐え抜いた結果、「オリンピックに出場」するだけでなくアテネ・北京の二大会で金メダルを獲得ことができました。その過程には、連勝が止まるという大きな挫折感も味わいましたが、どんなにくらでも夢を失うことはありませんでした。残念ながらも最近の若者は、夢を持たずに何となく毎日を過ごしている人が多いと聞いています。ぜひ、夢を持って充実した人生を歩んでほしいと願っています。「今という瞬間を大事にし、尊い命を大切にしてほしい。」という亡くなった横山さんの思いが伝わってきます。ぜひ、若い皆さんに読んでいただきたい本です。





よしだ ひでひこ 吉田秀彦(柔道家)

■ 大府市出身

★ バルセロナ(優勝)、アトランタ(五位)、シドニーと
三大会連続の五輪出場を果たす。

★ 講道館杯日本柔道体重別選手権大会優勝(H3、10)、
嘉納治五郎杯国際柔道大会優勝(H6)、世界選手権大
会優勝(H11)。現在、柔道家として総合格闘技に参戦。

わたしの一冊



▼ 書名 走れメロス

▼ 著者 太宰治

▼ 出版社 角川書店

本の紹介

人を信じる(しん)ことが出来(でき)なくな(な)った王様(さま)から、友人(ゆうじん)セリヌンティウス(ウス)を身代(みか)わりにする(す)ことで、自分(じぶん)の村(むら)に帰(かえ)ってまた町(まち)へ戻(もど)るための猶予(ゆうよ)を三日間(さんか)だけ与(あた)えられたメロス。その道中(みちちゆう)、いろいろ(いろいろ)な思(おも)いが出(で)てくる中(なか)で、友人(ゆうじん)を信(しん)じる(しん)こと、そして自分(じぶん)を信(しん)じる(しん)ことの大切(たいせつ)さを描(えが)いている本(ほん)です。本(ほん)の中(なか)でメロスと友人(ゆうじん)がお互(たが)いに相(あ)い合(あ)うところ(ところ)がありま(あ)すが、人(ひと)は疑(も)いを持(も)つてしま(しま)うこと(こと)もありま(あ)す。でも、それ(それ)以上(いじょう)に相(あ)い合(あ)うこと(こと)を信(しん)じて、そ(そ)して自分(じぶん)を信(しん)じる(しん)こと(こと)で達(たっ)成(せい)出(い)来(き)る(る)こと(こと)は多(おほ)い(い)です。自分(じぶん)自身(じしん)柔道(じゆうどう)をず(ず)つと続(つづ)けてきた中(なか)で、仲間(なかま)、自分(じぶん)自身(じしん)を信(しん)じてきた(きた)からこ(こ)そ今(いま)の自分(じぶん)がある(あ)ると思(おも)いますし、こ(こ)こま(ま)で頑(がん)張(ば)つてこ(こ)られた(ら)んだと思(おも)います。皆(みな)さん(さん)も仲(な)間(ま)を信(しん)じていま(いま)す！

じ、そして自分自身を信じ続けてください。

小中学生のみなさんへ

「続けること」の大切さ

わたしは十歳(じゅうさい)の時に柔道(じゆうどう)を始(は)め、現(げん)在(ざい)も子(こ)供(ども)たち(たち)に柔道(じゆうどう)を教(お)えていま(いま)す。その間(あいだ)には、「辛(つら)いこと」「苦(くる)しいこと」もありま(あ)した(た)が、その何(なん)倍(ばい)、何(なん)十倍(じゅうばい)も「嬉(うれ)しいこと」「感(かん)謝(しゃ)する(す)こと」がた(た)くさん(さん)ありま(あ)した(た)。勝(か)つた時(とき)には仲間(なかま)たち(ち)と喜(よろこ)びを分(わ)かち合(あ)うこと(こと)がで(で)きま(ま)した(た)。柔道(じゆうどう)を始(は)めた頃(ころ)は、決(けつ)して強(つよ)い選(せん)手(て)ではな(な)か(か)つた(た)ので(ので)すが、オリ(オリ)ン(リン)ピッ(ック)で金(きん)メ(メ)ダル(ダル)を取(と)ることもで(で)きま(ま)した(た)。それ(それ)も周(まわ)りの皆(みな)がいてく(く)れたお(お)かげ(げ)です。そして、今(いま)では「柔道(じゆうどう)が大(だい)好き(すき)」だ(だ)と言(い)い切(き)れま(ま)す。「柔道(じゆうどう)を一生(いっしやう)続(つづ)ける仕事(しごと)にしよう!」と思(おも)えま(ま)す。続(つづ)けてい(い)れば(ば)必(かなら)ず上(じやう)達(たつ)する(る)し、好(よ)きにもな(な)りま(ま)す。ぜ(ぜ)ひ、皆(みな)さん(さん)にも好(よ)きなこ(こ)とを一生(いっしやう)懸(けん)命(めい)続(つづ)けてほ(ほ)しいと思(おも)いま(ま)す。それ(それ)が、自分(じぶん)にとつ(と)つての「宝(たから)」にな(な)りま(ま)す。若(わか)い皆(みな)さん(さん)には、無(む)限(げん)の可(か)能(ねい)性(せい)が秘(ひ)めら(ら)れていま(いま)す!

